

令和元年 8月 29日  
302 会議室

令和元年第16回  
立川市教育委員会定例会

立川市教育委員会

## 令和元年第16回立川市教育委員会定例会

1 日 時 令和元年8月29日（木）

開会 午後 1時30分

閉会 午後 3時30分

休憩① 午後 3時25分～午後3時27分

2 場 所 302会議室

3 出席者

教育長 小町邦彦

教育委員 松野登 田中健一

伊藤憲春 嶋田敦子

署名委員 田中健一

4 説明のため出席した者の職氏名

教育部長 大野茂 教育総務課長 庄司康洋

学務課長 浅見孝男 指導課長 前田元

統括指導主事 寺田良太 川崎淳子

教育支援課長 秋武典子 生涯学習推進センター長 五十嵐誠

図書館長 池田朋之

5 会議に出席した事務局の職員

教育総務課庶務係 笹原康司 井田容子

## 案 件

### 1 議案

- (1) 議案第13号 令和2年度使用立川市立中学校教科用図書の採択について
- (2) 議案第14号 令和2年度使用立川市立小中学校特別支援学級教科用図書の採択について

### 2 協議

- (1) 令和2年度使用立川市立小学校教科用図書の採択について
- (2) 教育委員会の点検・評価について

### 3 報告

- (1) 第17回全国小学校英語教育実践研究大会の開催について

### 4 その他

## 令和元年第16回立川市教育委員会定例会議事日程

令和元年8月29日  
302会議室

### 1 議案

- (1) 議案第13号 令和2年度使用立川市立中学校教科用図書の採択について
- (2) 議案第14号 令和2年度使用立川市立小中学校特別支援学級教科用図書の採択について

### 2 協議

- (1) 令和2年度使用立川市立小学校教科用図書の採択について
- (2) 教育委員会の点検・評価について

### 3 報告

- (1) 第17回全国小学校英語教育実践研究大会の開催について

### 4 その他

◎開会の辞

○小町教育長 ただいまから、令和元年第 16 回立川市教育委員会定例会を開催いたします。  
署名委員に田中委員、お願ひいたします。

○田中委員 はい。承知しました。

○小町教育長 次に、議事進行についてお諮りいたします。本日は議案 2 件、協議 2 件、報告 1 件でございますが、2 協議(1)令和 2 年度使用立川市立小学校教科用図書の採択について、は本日の協議において、教育委員会としての意見がまとまり次第、本定例会において追加議案として提出させていただきたいと思いますが、ご異議ございませんか。

[「異議なし」との声あり]

○小町教育長 では、そのとおりにしたいと思います。

また、通常ですと、議事進行はお配りしました議事日程の順になりますが、先ほど申し上げた理由によりまして議事の順番を変更し、2 協議(1)令和 2 年度使用立川市立小学校教科用図書の採択について、を最初に行いたいと思いますが、ご異議ございませんか。

[「異議なし」との声あり]

○小町教育長 では、そのとおりにさせていただきます。

それでは、2 协議(1)令和 2 年度使用立川市立小学校教科用図書の採択について、は本定例会の最初にご協議いただき、教育委員会としての意見がまとまり次第、本日、本定例会において追加議案として提出させていただきたいと思います。

次に、出席者の確認を行います。大野教育部長、お願ひいたします。

○大野教育部長 本日第 16 回立川市教育委員会定例会の出席管理職につきましては、教育部長、教育総務課長、学務課長、指導課長、川崎統括指導主事、寺田統括指導主事、教育支援課長、生涯学習推進センター長、図書館長でございます。

---

◎協 議

(1) 令和 2 年度使用立川市立小学校教科用図書の採択について

○小町教育長 それでは、2 協議(1)令和 2 年度使用立川市立小学校教科用図書の採択について、を議題といたします。

それぞれの委員は調査研究し、経過または成果を踏まえましてご意見をいただき、教育委員会の権限と責任におきまして協議を進めてまいりたいと思います。

それでは協議に入りますけれども、その前に、前田指導課長、説明をお願いいたします。

○前田指導課長 それでは、ご協議をいただく前に、確認をさせていただきたいことが 1 点、それからご検討いただきたいことが 1 点ございます。本日ご協議いただき、その後決定していただく小学校教科用図書については、来年度、令和 2 年度から全学年について、本日決定された発行者のものを使うことが原則となっております。

このことを踏まえ、まず確認でございます。第4学年の社会、5・6年生の地図、2年生の生活、2年生・4年生・6年生の図画工作、6年生の家庭科、4年生・6年生の保健につきましては、今年までに配布された教科書を来年度継続して使うということが指導としてなされております。これは複数学年にまたがる教科書等があるためでございます。

次に、ご検討いただきたい点についてでございます。国語、書写、音楽、道徳については、学習指導要領が複数学年の指導内容を一体となって示していることから、来年度の2年生・4年生・6年生については、今年度と同じ教科書を使うこともできる、となってございます。こちらについては、採択権者により今回の決定を踏まえて判断していただくことができるというところでございます。このことについて来年度、本日決定していただく全学年において新しい発行者のものを使用するということでご提案させていただき存じますが、ご協議いただき、ご承認くださいますようお願ひいたします。

○小町教育長 説明ありがとうございます。

これより協議に移ります。今、説明していただいた件についてのみでございますけれども、ご意見ございますか。田中委員。

○田中委員 今、課長のほうから提案がございましたので、今説明があったとおりでお進めいただきたいと思いますので、よろしくお願ひいたします。

○小町教育長 ほか、ございますか。よろしいですか。

[「はい」との声あり]

○小町教育長 では、異議なしと認めます。今、前田指導課長から説明したとおり、新しい教科書を使用ということで、本市の場合は採択したものを使うという形にさせていただきます。

それを前提としながら早速、国語から、それぞれの委員のご意見を賜ればというふうに思っております。よろしくお願ひいたします。はい、松野委員。

○松野委員 私はこの採択に当たって、自分なりにこんな観点をもって教科書を調べてまいりました。第1は、法令に基づいている、一番身近なのは指導要領の改訂であります。2点目には、立川市の学力向上を図るために調査等が出ております。これは立川市の一課題であります。このことを、調査を踏まえていく、このことが大事。3点目には、各教科の調査研究部会や検討委員会の報告を尊重したい。あるいは市民のコメントを参考にする、このことが大事かなというふうに思います。4点目には、各調査研究委員の皆さんのが調べている教科書の内容であります。構成はじめ体裁等ですね。こういったことを参考にして私も検討してまいりました。

さて国語についてですが、立川市の学力向上に関する調査、これについての課題でありますけれど、第1に書く力の向上を挙げております。そして必要な情報を取り出し、それを比較・関連付けて読み取る力を向上させる、これが本市の課題であります。この観点に立ったときに私は光村図書と教育出版、この2者がふさわしいと考えて調べてまいりました。

特に教育出版には、ちょうど2年生から4年生あたりが一番国語のいろいろな力を身に付けさせる時期であります。そこを集中して調べてまいりますと、3年の上、「うめぼしのはたらき」から「めだか」、ここでは文章のまとまり、要点をつかむ、3年の下では段落と段落のつながり、4年の上、「ぞうの重さを量る」、「花を見つける手がかり」では、結果と結論、事実と意見、これ文意的な部分ですね、実験と結果を表にまとめる、こういうふうなことがあります。4年では「ウミガメの命をつなぐ」、ここで要約を扱っております。書くことの関連も出ております。

もう一方の光村を見ていきますと、まず編集方針には論理的な理解や表現を重視したというこの編集があります。特につなげるという順位の推移、対比するという列挙、問い合わせ、事実と解釈、主張と理由、仮説と検証、具体と抽象、そして全体と部分では要点、分類、構成、これが示されておりまして、さらに説明文で学んだ論理をそのまま書くこと、話すことにつなげる指導を重視しております。そこから問い合わせ、はじめ・中・終わりの文章の組立、事実と解釈、主張と理由、仮説と検証、具体と抽象などの論理的な理解力・表現力を身につけさせるような編集意図がこの教科書の中にはたくさん出ております。

例えば2年生の上、「こんなものみつけたよ」、ここではもうはじめ・中・終わりの組立を学びます。下では「おもちゃのつくり方」、説明する文章では、つぎに、を使った順序を学びます。3の上では、「言葉で遊ぼう」、「こまを楽しむ」、これは組み立てを考えて報告文を書く。「すがたをかえる大豆」では段落の中心となる言葉や文を捉える。「ありの行列」は段落のつながり、考えの進め方を捉える、というふうに光村の教科書の中には、今、立川市の子どもたちが学力向上にずいぶん役立つような学びが配列されている。このような点から、私は光村がふさわしいなというふうに考えています。

○小町教育長 ほか、ございますか。伊藤委員。

○伊藤委員 私も様々な教科書を検討してまいりました。基本的には今、松野委員がおっしゃられたような形で、私も同じような考え方で選ぶようにいたしました。

やはり私も教育出版と光村図書の教科書が比較的いいのではないかと考え、また教育出版のほうでは特に、これから考えさせる、主体的に考えさせるというところはとてもいいかなと思ったんですけれども、例えば同じような素材を扱った「大造じいさんとガン」などというところで比較すると、光村図書の表現、考え方方が微妙な違いがある。その辺で私も光村図書が一番いいのではないかというふうに考えました。

○小町教育長 ほか、ございますか。嶋田委員。

○嶋田委員 私も教育出版と光村図書がわりといいのではないかというふうに感じました。

教育出版のほうは題材や挿絵が良くて、話し合い活動につながるような発問も多く、そういうところがいいなと感じました。

光村図書のほうは、学習というところで見通しを立てて順序立てて考えを深めるというところで、よくまとまっているなと思いました。子どもたちの表現力などにつながるところであるかなと思います。また、情報、対話の練習など見出しが具体的で、何を学習して

いるかが分かりやすくて、大変良い教科書ではないかなと考えました。

○小町教育長 ほか、ございますか。田中委員。

○田中委員 私から最初にお断りをちょっと申し上げておきたいのですが、発行者名称については、令和2年度から5年度使用で、東京都教育委員会の中で教科書調査研究資料の中の略称が出ているんですね。例えば東京書籍であれば東書、学校図書であれば学図と、この呼称で私のほうでは申し上げたいと思います。

なお、2者に絞り込んで私のほうの研究結果を説明いたします。

最初に、国語がいま出ましたので、4者のうち東書と光村、この2者に絞り込みました。

特に東書については、言葉により見方・考え方、これを働かせた学び、あるいは言葉の力が身に付く教科書になっていたな、そんなような工夫がされておりました。しかしながら、物語文あるいは説明文の内容が魅力的ですけれども、資料の教材が多いんですね。また全体的に文字数がすごく多いな、そんな感想を持ちました。

一方、光村については、既習単元との関連の記述がありますので、この中で学びの連續性とかあるいは系統性が分かりやすい教科書になっていたと思います。また、物語文あるいは説明文ともに興味を引きつける、そんな内容になっていたように思います。とりわけ巻末には学習に用いる言葉、これが追加され指導に活かす工夫がされていたと思います。

以上のことから、当市の児童の実態を考えた場合に光村が良いと、そのように判断をいたしました。以上でございます。

○小町教育長 私からも述べたいと思っています。皆さん、光村ということで、私も光村がいいかなと思っているところでございます。まず第一に、学習の手引きが使いやすいというところでございまして、本市、団塊の世代の教員が卒業いたしまして、若い教員が大変増えてきている中で、この手引きが大変に教材研究にも活用できるという意味で、とても羅針盤になって使いやすいのではないかというのが1点でございます。

もう一つは、とらえよう、深めよう、まとめよう、広げよう、ということで学習の見通しをもたせやすい構成になっている。新学習指導要領がまさに主体的に考えるというところに重点を置いておりますので、そういったときになかなか見通しがもちにくい場面ございますので、見通しをもたせるということはとても重要なポイントになるかなというふうに思っています。

3点目は、本市の子どもたちの学力、特に国語に関しては物語文は読み取りやすいんですけれども、逆にいって説明文のほうが読み取りにくいという傾向が出ておりまして、これは結果的に学力テストにおいても長文読解がなかなか難しい、つまずいてしまう子どもが出ているというところにも表れているかなというふうに思っていますので、そういった面で見ると光村の教科書の中の説明文と、児童が考えを深める、そんな教材が多く入っているかなと思っております。

○小町教育長 では、皆さんのご意見を賜りまして、国語におきましては光村図書出版ということで最終的にまとめていきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

[「はい」との声あり]

○小町教育長 では、異議なしと認めます。国語については光村図書出版ということでまとめていきたいと思っています。

次に、書写にまいりたいと思います。田中委員。

○田中委員 私は、5者のうち、光村と日文の2者に絞りました。

特に光村については、発達段階に応じて段階的あるいは系統的な教材、それが丁寧に配置されておりましたし、あるいは適切に能力を育む教科書として工夫されていたように思います。また、全学年とも基礎・基本の確実な習得、これを助ける内容になっておりました。しかしながら、全体を通して見て、とりわけ高学年、情報が多いように感じましたし、児童にとって負担感を感じるのではないかと、そのように感じました。

一方、日文についてですが、見通しを立てて学習を進め、子ども自らが考えて書く力、これを育む教科書になっているな、その辺りがだいぶ工夫されていたようです。このことを通して、本市の児童の課題である自己肯定感の高揚、あるいは主体的な表現の工夫に役立つものと考えております。また、構成、配列、これが非常に適切でありますし、とりわけ挿絵とかアンダーラインの色が全体的に淡くて、大きさや形あるいは重さが児童の学習活動へのある種の工夫が見られましたので、このことから日文が適切であると、そのように考えております。

○小町教育長 ほか、ございますか。嶋田委員。

○嶋田委員 私は教育出版と日文のほうがいいかなというふうに感じました。

教育出版のほうは、筆の運び方が大変分かりやすいなというふうに思いました。日文のほうは、文字全体の組み立てや中心などバランスを意識してあって、整った字を書くためには大変分かりやすいかなと思います。

○小町教育長 ほか、ございますか。伊藤委員。

○伊藤委員 私は光村と日本文教出版を比較させていただきました。光村のほうは国語の教科書にならっているところもありますし、今までの状況と割合とよく似ているというようなものがあり馴染み深いかなという気がいたしましたけれども、日本文教出版のほうが基本がよく分かりやすくできているなというふうに感じました。

ですからその2つの中で比較しましたところ、日本文教出版のほうが立川にはいいのではないかという気がいたします。

○小町教育長 ほか、ございますか。松野委員。

○松野委員 私も国語を光村に考えたものですから、じゃあ書写も光村かなと思いながら各を見てまいりましたが、開いたときに教科書の中に学び方というか学習の進め方ですね。これは例えば光村も「考え方」「確かめよう」「生かそう」というふうに出ているのですが、唯一しっかりと学習の場面で出ているのが日本文教出版、日文なんですね。これはスリーステップで「考える」「確かめる」「生かす」というふうになっておりまして、スリーステップの中でそれぞれの文字を獲得していく。しかも中学年辺りは鉛筆で書くとか、さ

らに生かすような形をとっています。これはやはり指導要領の資質・能力の3つの柱を具体化したのかなと思いながら見ておりましたが、この指導がとても分かりやすいと私は思いました。こういうことを調査研究部会等の報告ではどうなっているのかと思いながら見ていきますと、やはりそこを指摘しておりましたね。活動の流れが、どの学年も一貫していて分かりやすいと。そういうふうなことを考えますと、日文のほうが使いやすく、ふさわしいのかなと考えました。

○小町教育長 では私からも述べたいと思っています。書写に関しては、私も日本文教出版がよろしいかなと思っています。点画のつながりが丁寧に説明されていることであるとか、それから、嶋田委員もおっしゃっていましたけれども、字形というか字の形を整える、線画が児童にとってとてもイメージがつかみやすいかなと思っています。ＩＣＴの時代になってまいりましてキーボードの時代になっている中で、字を書くというのは、なかなか子どもにとってはハードルが高くなっているわけでございます。そんな中で日本語が持っている本来の美しさを字形という形で子どものうちにしっかりと身に付ける、とても大事かなと思っていますので、そういった意味で意識して編集なさっているのかなというふうなものが感じ取れました。そういった意味で、私は日本文教出版がよろしいのかなと思っております。

○小町教育長 それではお諮りいたします。書写につきましては、皆さん日本文教出版ということでおろしいでしょうか。

[「はい」との声あり]

○小町教育長 異議なしと認めます。書写については日本文教出版といたします。

次に、社会科です。はい、松野委員。

○松野委員 社会科での学力向上についての本市の課題というのは、調べてきたことを整理し、目的と手段、原因と結果の関係、社会的事象の特色や相互の関連、社会的事象の意味を捉える力の不足、そしてもう1点は、資料から取り出した情報を比較関連づけて読み取る力の不足を挙げております。問題解決的な学習を進めるにあたって、私はこの観点から教育出版、東京書籍でさらに検討してみました。

東書のほうは、つかむ・調べる・まとめる等、分かりやすい学習の流れがあります。しかし最後のまとめの方法が楽しいところもありますけれども、何を学んだかということになりますと、なかなか難しいかなというところがあります。立川の今言った課題、調べてきたことを整理して目的と手段、原因と結果、そういうことを捉えるには、ちょっと難しいかなと思いました。

その点、教育出版のほうは、編集方針が、まず前の学年を振り返ろう、何を学んだか、何ができるようになったか、このことをちゃんと問うております。そして、どうやって学んだか、その方法についても振り返らせていると。その中の社会科の見方や考え方、特にこれは指導要領で重視していることありますが、時期や時間の変化、あるいは比べる、関連づける、場所や広がり、工夫や関わり、総合する、こういった観点から内容が展開さ

れております。さらに1時間ごとに「この時間の問い合わせ」といふうに問題をきちっと提起しております。こういう課題設定を助けるキーワードが配置されておりますし、また、まとめも分かりいいというのが教出がいいなという理由であります。したがって、教育出版を推薦いたします。

○小町教育長 ほか、ございますか。伊藤委員。

○伊藤委員 社会では3者が出ております。どの教科書も新しい資料や写真、分かりやすい表現でとてもいいかなというふうな形で、逆に悩んでいるというのが現実です。実際にまとめるという問題解決的な手法ということも考えられておりまして、みんなそれぞれいい教科書なのではないのかなという気がいたしました。その中で、前回の教育委員会でも出ておりましたけれども、八ヶ岳という一つのキーワードがあり、そこでの立川市が行く自然学習の一つの参考になる、そういうことの助けとなるという点では、教育出版がいいのではないかと考えております。

○小町教育長 ほか、ございますか。嶋田委員。

○嶋田委員 私も、どの教科書も調べ学習やまとめ学習がしやすいように工夫されているなと思いました。その中でも教育出版は、まとめる、つなげる、学習計画といったところで、自分たちで調べてまとめるような学習ができる、学びの手引き、次につなげようといったところではさらに深く考えることができます。社会というと暗記と思いがちですけれども、考えたり、判断したり、表現したりというところにもつながるような教科書ではないかなと思います。

○小町教育長 田中委員。

○田中委員 私は3者のうちから東書と教出、その2者に絞り込んでみました。

東書については見方・考え方、これを働かせて、問題解決的な学習を進めていく教科書として工夫されていたなと思います。また、まとめる場面については言葉の一覧がありました。特に第5学年は上・下巻に分かれておりまし、第6学年は歴史と政治、国際に分かれて、ちょっと気になったんですが、戦争に関する資料が比較的多いのではないか、そんな印象を持ちました。

一方、教出については、知識や技能の確かな習得のもとに、思考力あるいは判断力、表現力、これを育む教科書として工夫されていたのではないかと思います。また、広げるページがあるのですが、この中で段階的で有効な資料とか、あるいは学習課題による工夫、そんなことがなされておりました。さらに第5学年では、先ほど伊藤委員からも出たように、立川市の児童は高地の单元で八ヶ岳の記載、これが当市の児童の自然学習の事前指導にもつながると、そんなことを考えた上で、教出を推薦したいと思います。

○小町教育長 では私からも述べたいと思います。社会科におきましては、私は教育出版がよろしいなと思っております。1つは、まとめるページの構成が、他の発行者もあるんですけれども、教育出版のほうが使いやすい構成になっているかなというふうに考えております。それから、本文中のとても重要なキーワードが太字で明瞭になっています。公教育

の場合は様々な子どもたちが同じ教室の中で学びを展開しているわけで、そういった中で考える授業なんですけれども、やはり知識としてのキーワードというのはとっても重要で、それをしっかりと学んだ上で考えを深めることが重要なと思っていました。そういった意味で社会科における大切なキーワード、それが太字で明瞭になっているので、だれが見ても見やすいということで、それがとても社会科を学ぶ上での助けになるのではないかと思っておりまますので、そういった意味で教育出版ということで推させていただきます。

○小町教育長 それでは、お諮りいたします。社会につきましては、教育出版ということでよろしいでしょうか。

[「はい」との声あり]

○小町教育長 異議なしと認めます。社会については、教育出版といたします。

続きまして、地図でございます。田中委員。

○田中委員 地図ですが、私のはうは2者のうちの東書と帝国が入っているのですが、東書については調べましたところ、基礎的な知識あるいは概念あるいは技術の習得、これができるような地図帳として工夫されていたと思います。また、鳥瞰図があるんですが、この鳥瞰図から真上からの図、さらに地図へという、この視点の展開が工夫されているなと思います。ただ、この中で地図のしくみが分かるような工夫はされているのですけれども、地図帳にイラストや絵などが出ているんですね。これが少し大きめに書いてあったり、あと地図が隠れている部分が何箇所も見られるんですね。これはちょっともったいないな、そんな印象を受けました。

一方、帝国については、各発達段階の子どもたちに配慮した、見やすいかつ親しみやすい地図帳として工夫されていたと思います。また、「地図って何だろう」あるいは「地図マスターへの道」のコーナーが設けられておりまして、これが授業に活用しやすく工夫されておりました。地図のページにも方位磁針に似たイラスト、これがあるため方位を明記しやすいようになっていたように思います。さらに帝国は、日本の領土についてのページ、これが非常に分かりやすいものになっておりましたし、これらのことから考えて、当市の児童が複数の資料を関連づけて検討する、このときに大いに役立つのではないかと。以上のことから帝国を推薦します。

○小町教育長 ほか、ございますか。嶋田委員。

○嶋田委員 私はやはり帝国書院のはうが地図自体の色合いや文字の入れ方などが見やすいと感じますし、はじめの説明も分かりやすく、またQRコードや地図マスターといった情報も興味のある子どもがさらに知識を深めるのに大変いいと思います。

○小町教育長 伊藤委員。

○伊藤委員 私も両者を比べてみると、圧倒的に私にとっては帝国書院が見やすい。子どもたちがいろいろなものを学ぶ上で、見やすい、見て楽しいという、つまり情報がいっぱい入っていることだけがいいのではなくて、パッと見てから興味を持って細かいことを調べるというような形につながるのは、むしろ帝国書院ではないかなというような気がして、

帝国書院を推薦いたします。

○小町教育長 ほか、ございますか。松野委員。

○松野委員 私も調査研究部会や検討委員会の報告を見て、ああ同感と思ったのは、明るく、見やすい、分かりやすい、帝国書院のほうがね。そういう感想を持ちました。今、伊藤委員が情報があまり多く入るかどうかという話をされましたら、実は帝国書院のほうはページ数が全部で120ページですか、東京書籍が102ページ、その違いは何かなどといつたら、資料が豊かなんですね。これは結構5、6年の学習には大いに役に立つなという資料がたくさん並んでおります。そういう点では両方加味して帝国書院のほうが充実しているなという気がいたしました。

○小町教育長 では私からも述べたいと思います。地図につきましては私も帝国書院ということで推薦したいと思います。国土地理院の地図データを活かしてみまして、地図帳本来の目的である地図の見やすさということでは、やはり帝国書院がよろしいのかなと思っています。地面の高い、低いの色彩であるとか、表記が大変に見やすいということで、地図の中から情報を読み取るということをまず始める上において、見やすさというのは大前提になろうかなと思っていますので、そういった意味で、地図に関しましては帝国書院ということに、私は推させていただきます。

○小町教育長 それではお諮りいたします。地図に関しましては、帝国書院ということでよろしいでしょうか。

[「はい」との声あり]

○小町教育長 異議なしと認めます。地図に関しては帝国書院といたします。

続きまして、算数です。松野委員。

○松野委員 私は本市の課題から考えたのですが、課題には数量の関係を数直線図に表したり、数直線図から立式して答えを求めたりするなど、図と式を関連付けて考える力の不足、問題を段階的に解決する素地を育て、立式の根拠を明らかにして考えていくことや、筋道立てて考える素地をつくる、を課題としております。この観点に立って今使用している学校図書と東京書籍を比べてみました。

学校図書は、編集方針に3つの学びの力を示し、「考え方モンスター」、「考えるノート」等、算数の考え方・見方の重視を載せているのがよく伝わってきます。

一方、東京書籍のほうは、「学びのとびら」による学習の流れが問題をつかむ、考えを書き表す、友だちと学ぶ、ふりかえり、まとめる、こういう流れが分かりやすく示され、参考となるマイノートをつくろう、これが出てきて、なお教科書を使った学習の進め方には自分の考えを伝えようで、いわゆる課題としている筋道立てて考えるヒントといいますか例示が載っております。まず次にという順序性、それから何々と思います、その理由はどういう根拠、そして図や式に表すというこういう筋道立てて考える例を示しております。

また、検討委員会の報告には、5年生ですが公倍数・約数の学習がどこにあったほうがよいのか、つまりその後に単位当たりの量、速さがあるわけですから、その前に学ぶこと

のほうがよいという意見があります。これは私も調べてみましたが、どれほど混み合っているのか、混み合う比較をするわけですが、そのときにあらかじめ公倍数や約数の勉強をやっていますと、これも一つの考える要素になっていく、そういう点では先にそのことを学んでいる東京書籍のほうが使いやすいのかなというふうに考えております。また数直線図から立式する、このことについても十分に東書のほうは学んでいける教科書だなと考えております。この点から、算数については東京書籍を推薦したいと思います。

○小町教育長 伊藤委員。

○伊藤委員 私は、算数におきましては6者がありましたので、大きく分けて東京書籍と教育出版、学校図書というふうな形で比較をしてみました。この3者が分かりやすくて、いろんな部分もいいかなという気はいたしますけれども、今、松野委員がおっしゃられたようなこと、それから、何しろ私がパッと見たときに「マイノート」というこの形、これは東京書籍の場合には、問題、めあて、まとめるという流れがとてもよく書かれていたのと、それからマイノートというのはとても分かりやすくて子どもたちの参考になるのではないかというように考えましたので、その中から私は東京書籍を薦めたいと思います。

○小町教育長 ほか、ございますか。嶋田委員。

○嶋田委員 私は教育出版のものもイラストや写真がうまく使ってあったり、「広がる算数」などでもおもしろいものを扱っていると思いましたけれども、やはり東京書籍のものは、伊藤委員もおっしゃったように「マイノート」というページが大変分かりやすく参考になりますし、「いかしてみよう」など実体験と結び付けるような工夫も多々ありますし、あまり算数が好きでない子どもも興味を持ちやすいのではないかというふうに感じましたので、東京書籍のほうを推薦したいと思います。

○小町教育長 ほか、ございますか。田中委員。

○田中委員 私は、6者のうち教出と東書、この2者に絞り込んでみました。

教出については子どもの問い合わせているんですね。これを軸にして展開する教科書として工夫されていたように思います。あと、単元が習得から活用そして探求と、このよう流れで構成されておりましたし、学んだことを実感しながら学習を進めるようになっていたように思います。しかしながら、この中で書き込みながら学習する、そういう箇所が比較的多いなという実感も持ちました。あわせて、教科書の図形等が描きにくいように私は感じました。

一方、東書については、学んだことの活用を目指した教科書として、いろいろ工夫されておりました。とりわけ低学年から倍とか比例の考え方、これが非常に充実しているなど思いましたし、あわせて単元の最初に既習事項を確認する問題、単元の終わりに大切な見方や考え方、これを振り返るページ、それがよく工夫されておりました。さらに、問題解決の過程で働かせた数学的な見方あるいは考え方、これを生かすように工夫されておりました。したがって、このことから当市の児童の実態を考えた場合に、東書が良いと判断をいたしました。

○小町教育長 私からも述べたいと思います。算数につきましては、私も東京書籍ということで推薦したいと思います。図などが見やすいということは各者いろいろ発行者が工夫されているかと思いますが、なかでも児童の思考の発達段階に沿った、そんなところを意識して図などを構成しているのが東京書籍ではないかなと思っています。そこら辺の構成力を評価したいと思っていますし、また、例題につきましても実体験に沿ったという嶋田委員のご指摘がございまして、今の子どもたちにとって興味・関心を実体験の中から教材化するということは、とても重要なことでございます。抽象的な数学に発展するわけでございますけれども、そんな中でも出発点を実体験に置くという、とても視点としては重要なポイントかなと思っています。そういう意味で、算数につきましては東京書籍ということで推したいと思っています。

○小町教育長 それではお諮りいたします。算数につきましては、東京書籍ということでよろしいでしょうか。

[「はい」との声あり]

○小町教育長 異議なしと認めます。算数につきましては、東京書籍といいたします。

次に理科にまいります。田中委員。

○田中委員 理科については、私は5者のうちから大日本と教出の2者に絞りました。

大日本については、理科のおもしろさ、そういうものが出ておりましたし、また有用性を実感できるようなそんな教科書として工夫されていたように思います。また、実験方法の文章、これは非常に簡潔でポイントがよくまとまっていたように思います。しかしながら写真のサイズが大きくて、ちょっと空白感、そんなを感じました。

一方、教出のほうは、科学的な概念や基礎技能を確実に習得できるように工夫されていました。また実験の結果例や、あるいはグループごとに具体的な取組が載っていましたし、分かりやすい、そんな工夫がされていたように思います。さらに巻頭には前の学年で学んだこと、またあわせて学習の進め方等々、そして裏表紙をご覧いただくとおわかりですが、安全の手引き、これが表示されておりましたし、これを通じて注意を喚起していくと、そんな工夫が見られました。このことから、本市の児童については教出が良いと私は判断をいたしました。

○小町教育長 ほか、ございますか。嶋田委員。

○嶋田委員 どの教科書も結果から考察して結論を導き出しているというところがとても良いと思いました。私は学校図書もはじめとおわりに科学者の言葉があって、ちょっと科学的な雰囲気があつていいと思いましたけれども、やはり教育出版が、全学年で学んだことが分かりやすくまとめてあったり、あと国語科との結び付きなどもあって、話し合いのやり方、ノートのとり方、問題解決までの手順などが大変わかりやすく、科学のまど、チャレンジなどのページも知識を深めるのに大変よくできているなと思いました。また、おわりのページの安全の手引きも見やすくて良いと思います。

○小町教育長 ほか、ございますか。伊藤委員。

○伊藤委員 私は各者の中で水溶液というところにひとつ注目して、そこだけをまずは見るようになつました。各者とも分かりやすく工夫してやつてありますけれども、特に教育出版の中での実験の方法のところに、必ず保護めがねというところが強調されていて、とても感銘を受けました。子どもたちが実験をする中でそういう細かいところを書いてくださるというところがとてもいいかなと思いましたので、教育出版を推薦したいと思います。

○小町教育長 ほか、ございますか。松野委員。

○松野委員 私は立川市が学力向上で指摘している課題について、ここから考えてみました。課題には、児童が目的、問題意識をもって意図的に自然の事物・現象に働きかける活動を通して実感を伴った理解を図る、もう1つは、必要な情報を取り出し比較・関連付けることを通して全体の傾向を読み取る、このことを課題にしております。この点から私は教育出版と大日本図書を比べてみました。大日本図書、教育出版はいずれも、問題、予想、実験、結果から考えること、結論という流れがとても分かりやすい展開となっております。調査研究部会、検討委員会も同じく教育出版と大日本図書は、問題と結論がきちんと結びついていて理解しやすいという意見が出ております。

さらに読んでいきますと、教育出版には国語で学んだことを生かそうという編集方針があります。比べる言葉、関係づける言葉、見通しをもつ言葉、これを生かしております。単元のイラストにある児童の言葉としてそれが学習を進める助けになっておりますし、子どもたちの比較する、あるいは関係づけるというこの発想の助けにもなっております。こういうふうなことで理科を学んでいくならば、本市の比較・関連付けることとして全体の傾向を読み取っていくという、こういう力に大いに役立つのではないか、向上するのではないかというふうに期待しているところであります。また、前回の教育委員会で伊藤委員がおっしゃっていました、教育出版には薬品の取り扱いが必要な単元で特集されております。こういう安全面への配慮、これはとてもいいし、また分かりいいと思います。ということで教育出版を推薦いたします。

○小町教育長 私からも述べたいと思います。理科につきましては、私は教育出版を推したいと思っています。全体の構成の中で問題を発見して、それを実験して観察、資料を調べて等、実体験を通して結論を導き出すという理科の基本的な流れが明瞭になっているのが教育出版の教科書ではないかなと思っています。

本市の小学生は科学センターにおきましても大変に応募が多くて、理科好きの子どもたちが多いんですね。もっと理科好きを増やしたいなという思いもございまして、そういう意味でいうと実験観察という部分はとても子どもたちの興味・関心を呼ぶところでございます。そういうところを、流れを明瞭に整理する、とても難しいんすけれどもできているのが教育出版であるかなと思っています。それから、特に結論の的確なまとめと、キーワードのところに黄色いマーカーを使っておりまして、それも子どもの印象にしつかり残るのではないかというふうな思いがございまして、理科におきましては教育出版を推したいと考えています。

○小町教育長 ではお諮りいたします。理科につきましては、教育出版ということでよろしいですか。

[「はい」との声あり]

○小町教育長 では、異議なしと認めます。理科につきましては教育出版といたします。

続きまして、生活に入ります。松野委員。

○松野委員 生活科は読みまして改めて各者を検討したんですが、いずれも甲乙つけ難し、こんな状態かなと思いながら各者見てまいりました。特に私、1年生から始まる日々の活動、2年生まで、そういうふうなことを想像しますと、植物の観察から町たんけんなど、いろいろな活動があるのですが、その先には活動をまとめ、整理し、表現して使えるという活動が伴ってまいります。

そこで、どの各者も巻末で特集している例えば「まなびかたずかん」とか「ポケットずかん」「ひろがるせいかつじてん」「ちえとわざのたからばこ」「かつどうべんりちょう」、それがどのような意図をもって挙げているのかなということを検討いたしました。

それぞれの良さがあるんですが、調査研究部会が指摘しているように、学校図書の「まなびかたずかん」には、国語の話すこと・聞くこと・書くこととの関連を十分に図っています。比べてみるとこれが一番この関連性が高いなというふうに思いました。ほかにも例えば安全とか防災とかとかそういった面もあるんですが、学習に一番関連できているのは学校図書の「まなびかたずかん」かなと思いました。

また、アサガオの観察記録も各者見てみましたが、学校図書の事例はすごいですね、一番最初に子どもが書くときの一文です。「くろくてちいさいよ」って、この一文で終わっているんですね。結構各者は二文になったり、ええっ、1年生の初めてこのぐらい書くのかなと思うような、ちょっとレベルが高いのかなという気がいたしますが、学校図書のほうは非常に馴染みやすいというか、あっこれならできそうだなという感じがいたします。入学して間もない児童には親しみやすいなというふうに思いました。2番目に書く観察記録には、これもまた一文で、「おひさまのあたるところにおいたよ」というこの一文なんですね。ですからゆっくり、ゆっくりと子どもの発達を促している、そういう配慮もうかがえます。こういう点から、学校図書がいいなと私は思いました。以上です。

○小町教育長 伊藤委員。

○伊藤委員 私も本当に各者丁寧に書かれているなと思いましたし、難しいことというよりも、子どもたちが最初に学ぶという形のところでございますので、特に学校図書の場合に、ものしりノートが見開きで見やすい形になって大切なところが分かりやすい、どの辺が大切なのかということが比較的分かりやすくなっている。ただ、他の会社のほうも、東京書籍等も、子どもに分かりやすく積極的な活用が期待されるというようなことも書いてあり、なかなか比べるのは難しかったのですけれども、あえてということになりますと、学校図書を薦めるというような形になると思います。

○小町教育長 ほか、ございますか。嶋田委員。

○**嶋田委員** 私も、どの教科書もイラストや写真がきれいで、また、手洗い、うがいとか巻末の編集も大変いいなと思いましたけれども、やはり学校図書のほうは、ものしりカードなどのワークシートの書き方が大変分かりやすくて、またカードマークがあって、気持ちの整理が難しい低学年の子どもが、ちょっと気持ちを表すのに大変いいのではないかなどというふうに思いましたし、やはり巻末の「まなびかたずかん」も順序立てて説明してあって、シンプルでとても分かりやすくて大変いいと思いました。

○**小町教育長** ほか、ございますか。田中委員。

○**田中委員** 私のほうは7者のうちの東書と学図に絞りました。

東書については生活科で何ができるのか、また育成をめざす資質・能力、それを具体的に教科書としては工夫されていたなど、そんな感想を持ちました。また、スタートカリキュラムですけれども、このスタートカリキュラムでは社会に開かれた教育課程、これを実施するための解説文が掲載されておりましたし、また、生活科の学びを児童あるいは教員だけでなく保護者と共有できる、そんな工夫もよくされておりました。しかしながら大判化によって児童の負担感が非常に危惧されました。

一方、学図については、対話を通じて他者の考え、あるいは立場に気づいて、他者を尊重できる子どもを育てる教科書、そんな工夫がされていたように思います。実はこのことは当市の課題である自己肯定感の高揚、あるいは主体的な表現のところからも大切なことだと、そのように考えております。また、観察カードや記録カード、この例が随所にありますし、表現活動の参考になるようによく工夫されておりました。さらに巻頭に「まなびかたずかん」が掲載されておりまして、これが児童にとっては主体的に学び、また発展的な学習につながる、そんなものになるのではないかということで期待をしているところでです。以上のことから、学図が良いと判断をいたしました。

○**小町教育長** 私からも述べたいと思います。生活に関するところでは、私は学校図書を推したいと思っています。本市は幼稚園・保育園との連携ということで意識して取り組んでいるところでございます。小学校の低学年は幼稚園・保育園のしっかりとした取り組みを踏まえた上で教育を組み立てるということはとても大事だと思っていますし、また、幼稚園・保育園にとっても学校は何を求めているのかということをしっかりと理解した上で保育とか幼稚園教育に取り組むことは、とても大事かなというふうに思っているところでございます。同じ地域の学区の中の子どもたちということでございますので、そういう点でスムーズなつながりという意味ではスタートカリキュラム、とても大事な部分かなと思っていまして、そういう点に意識して構成をされている学校図書を推したいと考えております。

○**小町教育長** それではお諮りいたします。生活につきましては、皆さん学校図書ということでおろしいでしょうか。

[「はい」との声あり]

○**小町教育長** 異議なしと認めます。生活につきましては、学校図書といたします。

続きまして、音楽です。田中委員。

○田中委員 私は、音楽については教出と教芸を検討いたしました。とりわけ教出については、音楽的な見方・考え方、それを働かせるような学習を具現化するような教科書として工夫されていたように思います。また、共通事項が音楽のもととして題材のもとに掲載されておりましたし、確実に習得できるように工夫がされていたように思います。しかしながら、1年生にとっては文字や、あるいは情報量が多く、高学年の合奏の楽譜、これが小さくて読みづらく感じました。

一方、教芸については、系統的な題材構成と質の高い教材で確かな学力を育む教科書として工夫をされていたなと思います。また、題材を見ると学習のめあてが非常に分かりやすくなつておりましたし、身に付けさせたい力が明確に分かるような構成、配列になっていたように思います。さらにこの中で図形の楽譜が分かりやすく工夫され、かつ主体的・対話的、深い学びによる学習が実現されるのではないかと、その意味でも当市の児童にはこういうことが非常に大事であると思いますし、したがつて、教芸が良いと判断をいたしました。

○小町教育長 ほか、ございますか。嶋田委員。

○嶋田委員 私は、教育出版のほうも低学年の遊びの要素や「音のスケッチ」といったページがとてもよくできていると思いますけれども、やはり担任の先生が使う場合には使いづらい面もあるように感じます。

一方、教育芸術社のほうは、1年間でこんな学習をするというのが分かりやすく、最後に振り返りのページもあって全体がよくまとまっていて大変見やすくていいと思います。

○小町教育長 ほか、ございますか。伊藤委員。

○伊藤委員 2者ですので、比較をするのはしやすいかなと思っているのですけれども、透明シートが重なつていいかなと思う部分もあるんですけれども、ある意味では少し考え過ぎかなというような感じがいたすのと、学級担任がというようなお話もありましたので、指導する場合も使いやすいというように、現場がそれが使いやすいと感じるのが一番かなというような気がいたしますので、私は教育芸術社のほうを推薦したいと思います。

○小町教育長 ほか、ございますか。松野委員。

○松野委員 私も2者を比べてみて、どちらも取り扱うべき共通教材も扱っておりますし、そんな違いがどこにあるのかなとみてまいりました。調査研究部会や検討委員会からは、教育芸術社は題材名や指導内容、押さえるべき共通事項が分かりやすい、また担任も使いやすいとの意見も出ております。

こういう点も加味しながら私も比べてみたのですが、一つは6年生の「ふるさと」の共通教材を見てみたんですね。これ何度も見てみたんですが、ここで指導要領が変わりまして、改訂の中には、生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる資質・能力を育成することを目指すというふうに示されております。つまりこの「ふるさと」を通して、例えば教育出版では、心を伝える、心をつなぐという項目があります。その次に「ふるさと」が出てくるんですね。

教芸のほうは、「ふるさと」を学習したそのつながりが、人々が大切にしてきた歌を味わい、思いが伝わるように歌いましょうから、そして次のページになりますと、音楽が人と人をつなぐ、ふるさとについて、家族や地域の人にインタビューしてみましょう、とこういうふうにふるさとの学びから音楽を通して人と人がつながる、つないでいくという、この勉強をしているわけですね。私も、ああ、なるほどなと思いながら、そうしましたら教芸の編集方針の第一には、音楽で社会や身の回りの人々とつながる学びを促し、生活を豊かにする心を育む教科書だとあります、私は、ああ、これは教芸がいいなというふうに思った次第です。

○小町教育長 私も述べたいと思います。音楽につきましては、私は教育芸術社を推したいと思っています。今、松野委員がおっしゃった、人と人をつなぐという点、本当に音楽の力はそこにあるのかなというふうに思っております。

実は若葉小学校とけやき台小学校という2つの校舎が老朽化したために一つの新しい学校ということで、若葉台小学校ということでスタートしたわけでございますけれども、そんなとき、子どもたちの心を一つにする、それには音楽を通じて取り組むのがいいだろうということで、教育の柱の一つに音楽を据えて今取り組んでいるところでございます。子どもたちの様子を授業観察等で見させていただいて、本当に合唱にしろ合奏にしろ、心を合わせないと一つの曲にならないということもあるんですけれども、自然と音楽を通して、同じ町内の学校なんですけれども、それぞれのルーツをもった子どもたちが一つの学校ということで一体となって演奏する。新しい校歌もできましたので、そういった意味で新しい校歌を堂々と演奏し歌っている姿を見て、本当に音楽というものをそういった視点で教科書を作っていただいているのは、人と人をつなぐという意味での音楽の力を据えながら教材を配置している教育芸術社がいいのではないかと考えました。

○小町教育長 では、お諮りしたいと思います。音楽につきましては、教育芸術社ということでおよろしいでしょうか。

[「はい」との声あり]

○小町教育長 異議なしと認めます。音楽につきましては、教育芸術社といたします。

続きまして、図画工作です。松野委員。

○松野委員 図画工作について2者出ておりますので、2者を比較しながら読んでみました。調査研究部会や検討委員会の報告では、開隆堂は、工作における手順が詳細に記載されていて、担任としても指導しやすい。日本文教出版は、作品例が多く、発想のヒントとなるページが充実しているという記述がありました。

これに沿いながら私も開いて比べてみたのですが、今回の指導要領の改訂の中には、造形的な見方・考え方を働かせという項が出ておりまして、いわゆる感性や想像力を働かせて造形活動をする。ですから目標の1では、材料や用具を使って、創造的につくったり表す。思考・判断・表現のほうでは、造形的なよさや美しさ、表したいこと、表し方などについて考え、創造的に発想や構想する。3の学びに向かう力・人間性では、楽しく豊かな

生活を創造しようとする態度、全て創造する、新たにつくり出すというようなことを、子どもたちの自由な発想を求めているというふうな改訂がございます。

この点から考えていきますと、日本文教出版のほうが発想の手がかりを見つけやすい教科書というふうに私は判断いたしました。したがって、日本文教出版がいいというふうに思います。

○小町教育長 ほか、ございますか。伊藤委員。

○伊藤委員 私は2者ですので、比較をしながら全体的に拝見しました。ただ、なかなか違いが私には分かりづらいところがありますけれども、やはり専科の先生が教えやすいというお話がありましたので、それが一番かなと考えて私は日本文教出版を推薦いたします。

○小町教育長 ほか、ございますか。嶋田委員。

○嶋田委員 私も正直、どちらがいいのか分からんんですねけれども、やはり日本文教出版のほうは、「つながりひろがり」というところで読み物としてもおもしろいですし、地域とか社会、広く言えば世界のほうまで目を向けるというところでも、視野を広げができるような教科書だと思います。

○小町教育長 田中委員。

○田中委員 私の場合はこの2者のうち開隆堂ですけれども、これについてはカリキュラム・マネジメント、これを推進する教科書として工夫されていたように思います。また、説明の文が非常に簡潔で、表現、内容も、拡大して写真が見やすい、分かりやすい。特に文字の大きさもよく工夫されておりました。しかしながら、一目で一つの課題の内容を把握しにくい部分が何箇所か見られました。

一方、日文については主体的な学び、この実現を図るなどの感性であるとか想像力、これを育む教科書として工夫されていたように思います。また、題材のめあて、ねらい、安全上の留意点、かたづけ、振り返りなど、このような学習に必要なポイントが上手に記載されておりましたし、授業の流れが分かりやすく工夫されておりました。したがいまして当市の児童の実態を考えた場合に、日文が良いと、そのように判断をいたしました。

○小町教育長 では私からも述べたいと思います。図画工作に関しましては日本文教出版を推したいと考えております。図画工作は子どもたちの感性を育てる教科ではないかなと考えております。そういう面でいいますと、教科書はそのような発想が膨らむ余地を、あまり説明し尽くさない、膨らむ余地を意識して編集することが重要ではないかなと思っています。そんな意味で、どちらかというと日本文教出版のほうがそういったところを意識して編集されているかなと考えますので、日本文教出版を推したいと考えます。

○小町教育長 それではお諮りいたします。図画工作につきましては、日本文教出版ということでおろしいでしょうか。

[「はい」との声あり]

○小町教育長 異議なしと認めます。図画工作につきましては、日本文教出版といいます。続きまして、家庭でございます。田中委員。

○田中委員 家庭科については2者のうち開隆堂ですが、生活をよりよく変えていこう、そういう力が身に付く教科書として工夫されておりました。また、衣食住の内容ごとに分かれているために単元の構造が細かく、かつ、めやすが同じ場所に示されておりましたし、このことが実は分かりやすく工夫されていたように思います。しかしながら児童の興味・関心を高めるような情報がもう少し多いといいな、そんな印象を持ちました。

一方、東書については、問題解決的な学習が3ステップで展開できる、そんな教科書として工夫されていたように思います。また、単元のはじまりに学習の進め方のステップが掲載されておりましたし、児童が意識しやすい工夫がされておりました。かつ教科書がワークシートの役割を果たせるような工夫もされておりました。したがいまして、当市の児童の主体的で対話的で深い学び、これに資するために東書が良いと、そんなふうに判断をしております。

○小町教育長 ほか、ございますか。嶋田委員。

○嶋田委員 私は個人的には、教科書らしくて一口メモなど家庭で役立つ情報も多い開隆堂も大変良いと思いましたけれども、やはり東京書籍の最初のページの、家庭科はあなたの生活をよりよく変えていく教科です、というこの一言が大変いい言葉だなと思いまして、家庭科を勉強するというだけじゃなくて、自分自身の生活を見直していくたり、周りとの関わりとかそういうことを学んで自己肯定感を高めていくということにも役立つような教科書ではないかなと思って、大変良いと思います。

○小町教育長 ほか、ございますか。伊藤委員。

○伊藤委員 家庭科の教科書をどうみるか、というのがなかなか難しいところかなという気がいたしますけれども、やはり本来ある程度ご家庭において、いろんなことを教えていただくということも必要なんだろうなと思います。けれども、そうでない子どもたちにとって、どちらの教科書が見やすいか、分かりやすいかと考えたときに、東京書籍のほうが、やはり普段そういうものをさわってない、触れてない、例えばお湯の沸かし方ということに関しても、なんとなく分かりやすいのではないかという気がいたしますので、東京書籍のほうを推薦したいと思います。

○小町教育長 松野委員。

○松野委員 私も一番読んだのは調査研究部会や検討委員会からの報告ですが、そこに基礎的・基本的な知識・技能の習得を意図した紙面構成となっており、担任による家庭科指導が多い立川では扱いやすい。考えてみると、今専科を受ける学校ってないですよね。そういう意味ではこれに尽くるなと思いました。さらに、実際に教科書を開いてみると、開隆堂のほうも並び方については書いてあるのですが、東京書籍のほうが問題発見、解決、実践、評価、改善と進め方が分かりいいなというふうに私は思いました。したがって、東京書籍を推薦いたします。

○小町教育長 私からも述べたいと思います。家庭科につきましては東京書籍を推したいと思っています。調理とか裁縫などの手順がとても丁寧に示されているということ、基礎・

基本の説明が本当に詳細に示されている。それから、家庭から地域の担い手としてよりよい地域づくりを目指すという、そういう編集意図が明確に示されていまして、これは本市で取り組んでおります立川市民科という取り組みにも結び付く内容でございます。まさに地域の担い手としての市民でもある子どもたちでございますので、そういったところを教科書として具現化していただいているということは、とても立川市の教育にもマッチするかなと思いまして、家庭に関しましては東京書籍を推したいと思います。

○小町教育長 それではお諮りいたします。家庭につきましては、東京書籍ということでおろしいでしょうか。

[「はい」との声あり]

○小町教育長 異議なしと認めます。家庭につきましては、東京書籍といたします。

続きまして、保健に入ります。松野委員。

○松野委員 この保健の学習は、いかに問題解決として学習できるかが、全国的な課題であります、本市でも同じであろうなと想像しております。つまり、課題とまとめがしっかりとしているということがとても大事であります。調査研究部会、検討委員会からの報告を読みますと、光文書院、学研ともにはじめに課題が示され、まとめが合致している。さらに自分自身で考えられるようになっているというふうな報告を見て、光文と学研、両方の問題解決学習について調べてみました。

問題の設定では、光文書院の課題は一貫して疑問文の一文で簡潔に示されています。学研のほうは、二文になったり一文になったり、つまり何を重視して焦点化していくかというか点では問題解決しにくいかなというふうに思いました。調査研究部会からも、光文書院の学習の進め方は課題から話し合い、まとめという学習の流れが分かりやすくなっている、私も全く同感に思いました。この点から、保健の教科書は光文書院を私は推薦したいと思います。

○小町教育長 ほか、ございますか。伊藤委員。

○伊藤委員 私も東京書籍、光文書院、学研というところで比較をするようになりました。ほかよりもその3者の方が私にとっては分かりやすいかなという気がいたしましたけれども、その中では光文書院の自分について考えるという、子どもたちがこういうものを見ながら自分のことについて考えるということがしやすいのではないかという気がいたしましたので、私は光文書院を推薦しようと思っております。

○小町教育長 ほか、ございますか。嶋田委員。

○嶋田委員 私は東京書籍と光文書院の教科書が分量的にも内容的にもいいのではないかと思いましたが、その中でも光文書院のものが、どうして学ぶの、どうやって学ぶのといった導入がよくて、新しい資料もありまして、いいのではないかと思いました。

○小町教育長 ほか、ございますか。田中委員。

○田中委員 私は5者のうちの東書と光文、これに絞り込んでみました。

特に東書については、資料や他の教科との関連、あとデジタルコンテンツなど、児童の

学ぶ意欲、これを高める教科書としてよく工夫されておりました。またステップ1では、気づく、みつける、その次のステップ2では、調べる、解決する、課題が設定されておりました。しかしながら全体を見まして、児童がなぜ調べるのか、どう考えるのか、その機会がどうも省略されていたのが本当にもったいないな、そんな印象を持ちました。

一方、光文については、健康課題を見つけ、その解決に向けて主体的に学び考える力を育成する教科書として工夫されていたように思います。また、絵であるとか写真、アスリートのページ、これがたくさん出ておりましたし、児童が興味・関心を持って学習するのに取り組みやすいように工夫されていたように思います。なおかつ学習のまとめができるんですが、学習が定着しやすい、そんな工夫がされておりました。さらに巻頭にオリンピアンあるいはパラリンピアンのメッセージが適切に配置されておりまして、これらのことを見て、当市の児童の意欲をかき立てるものではないか、そんなことを期待しております。したがいまして、光文が良いと判断をいたしました。

○小町教育長 私から述べたいと思います。保健に関しましては、私は光文書院を推したいと思います。学習の進め方の流れの中を示してございまして、課題をつかむ、調べる、考え方、やってみよう、話し合おうなどの流れが明確に示されておりまして、学習の見通しがもてて大変にいいかなと思っています。特に学習のまとめが自分の生活に生かすという視点で編集されていることがとてもいいのかなと思っていますので、保健に関しましては光文書院を推したいと思います。

○小町教育長 それではお諮りいたします。保健につきましては、光文書院ということでおろしいでしょうか。

[「はい」との声あり]

○小町教育長 異議なしと認めます。保健につきましては、光文書院といたします。

続きまして、英語でございます。田中委員。

○田中委員 私は英語については7者のうちの東書と光村に絞り込みました。

東書については、スマールステップの構成で非常に見通しをもった学習ができるように教科書が工夫されておりました。特にこの中で別冊 Picture Dictionary、単語とか熟語、これが出ておりまして、非常に習得に向けた多様な活動ができるのではないか、そういう工夫がされておりました。しかしながら、内容の振り返りが少ないんですね。内容の振り返りがもっとあるといいなど、そんな印象を持ちました。

一方、光村については、言葉を通じた思考・判断・表現、これを通した学ぶ楽しさ、これが実感できる教科書として工夫されていたように思います。また、2年間通した一貫したストーリーとなっており、登場人物のコミュニケーション場面や成長する姿が児童の発達段階に即しておりました。かつ、Unitの活動やFun Time、これについては他教科で学んだことが活かせる活動が設定していました。したがいまして、学習指導要領の資質・能力の3つの柱、これを考慮するならば、当市の児童の英語力を育成するためには、光村が良いと判断いたしました。

○小町教育長 ほか、ございますか。嶋田委員。

○嶋田委員 私はコミュニケーションに重点を置いて見てみました。東京書籍や三省堂のほうにも吹き出しなどで表情やジェスチャーにふれているところがありましたけれど、やはり光村図書のものが内容、意図を伝える丁寧な言い方をしようですか、目と目を合わせて気持ちを込めてといったところがあるのが大変いいなと思いました。また、QRコードで表情とか口元の見えるようなものを探してみたんですが、それもこちらの光村図書のほうに、レビュー世界の友だちというところで子どもの話している表情や口元が分かるような映像を見ることができたので、それも大変いいと思いました。また前回、教育長が言わされたように「まちがいをおそれずに。」というような言葉も大変いいと思いました。

○小町教育長 ほか、ございますか。伊藤委員。

○伊藤委員 同じく初めての教科書というようなことがありました、子どもたちが入りやすく、楽しく学べるような形がというふうには思うんですけども、各者それぞれ工夫をしておりまして、比較するのがなかなか難しい、内容に大差はないというような感じがいたします。それから、文字の表現もあまりかわりはありませんので、どこがいいかなというふうに考えると、やはり検討委員会の報告から、どちらかというと私は光村図書を薦めるという形になると思います。

○小町教育長 ほか、ございますか。松野委員。

○松野委員 私は調査研究部会、検討委員会からの報告を見ますと、東書、光村は単元のねらいとゴールが各時間しっかりと示されていると。振り返りがしやすい。また「We Can」の今までの学習の流れを受け止めていて子どもが学びやすい。学ぶステップ、この過程が分かりやすいということから、東書、光村と2者を挙げながら比べてまいりました。

前回の協議で教育長が、活動から英語嫌いにならなければいけないよという話を、苦手意識をもたせないようにしたいという話をされたときに、私はそれが大事だなと思ったんですね。そして市民の意見も見ていきますと、市民の皆さんも同じようなことをやはり心配されているアンケートがありました。子どもたちが英語嫌いになってしまわないでしょうか、教育委員の先生には英語嫌いを生まない英語の導入をしてほしいです、こういう声があるということは、やはり子どもたちも先生方もそういった不安があるんでしょうね。

さあ、それでどういう教科書がふさわしいのか。先ほどの調査研究部会の報告を見ながら、そしていま嶋田委員がおっしゃっておりましたが、やはり教科書の編集の方針というのがありますので見ていくと、嶋田委員がおっしゃったように、特に光村の6年生、「やってみよう」「まちがいをおそれずに。」、これはとてもいいですね。5年の、「さあ、行こう。」「英語の世界へ」、これもいいですけれど、こういうメッセージを掲げられるというのは、子どもにとっても学びながらこれは結構励ましになりますね。そういう意味では、光村のほうが私はいいのかなと思っておりますし、ぜひ推薦したいと思っております。

○小町教育長 私も英語に関しましては、皆さんと同じ形で光村図書出版を推したいと考えています。東京書籍も大変よくまとまっているのですけれども、Picture Dictionaryが別

冊となっておりまして、本市の子どもたちにとってはちょっと机の上が混乱するかなと思います。そういった面でいえばちょっと使いづらい面もあるかなというふうに考えます。

光村図書のほうはねらいとゴール、CAN DO リストが明確で使いやすい構成になっていることがあります。それから、前回も申し上げたところでございますけれども、教科書の編集のそれぞれ冒頭に、コミュニケーションの道具として気持ちや思いを伝え合うための道具なんだということを明確に5年のメッセージがありまして、6年の教科書の冒頭には、やってみようおそれずに、言葉の学習は時間がかかる。だれでも間違いをしながら正しい言葉の使い方を理解していくこう、ということのメッセージを明確にした上で教科書に入るわけでございまして、まさにこの2つのメッセージは本市がねらいとしている英語好きの子どもたちを増やしたい、中学校の英語にスムーズにつなげたい、そのための教科書を選びたいという趣旨に大変に合っているのではないかなと思います。そういった意味で、英語に関しましては光村図書出版を推したいと考えます。

○小町教育長 それではお諮りいたします。英語につきましては、光村図書出版ということでおろしいでしょうか。

[「はい」との声あり]

○小町教育長 異議なしと認めます。英語については、光村図書出版といたします。

続きまして、道徳に入ります。松野委員。

○松野委員 一昨年、道徳で東京書籍を選んだ理由ですけれども、私はこれから道徳の課題というのは、それぞれの道徳的な価値について深めたり議論したりする、もっと価値について考えていく、このことは教師の指導力があってこそこれはできるんだというふうに私は思っております。どのような場面で、どのような子どもの意見で、そういう場面を取り上げながら子どもたちにより深く考えさせたり議論させたり、よりよく生きるにはどうしていったらいいのか、他者と共によりよく生きるにはどうしたらいいのか、こういうことを考えることが先生の指導如何だなというふうに考えております。

新しい教科書、たくさん各者ありましたけれども、一昨年発刊された各者の道徳の教科書には、本当にご丁寧な基本発問や中心発問がずいぶん掲載されておりまして、指導者目線になっている。これを学ぶ子どもたちも先生も、みんな見ているわけですね。ですから私もまたま仕事で他の学校に行きましたら、先生がもたついていると子どもがいうんですよね。「先生、これまだやってないよ」。あまり先が見え過ぎちゃうと、やっぱりこれ、学ぶということに何というのか意欲がなくなってしまいます。ですから先が見える教科書ではなくて、先生方に指導の工夫をしていただいて、自分を含め他者と共にどう考えていったらみんなよりよく生きられるのかな、くらせるのかな、そういうことをもっと深める道徳にしていただきたいという思いを込めて、一番ヒントの少ない東京書籍がいいと私は思ったんですね。ですからこの考えは変わりません。ということで、私の推薦の理由はそこであります。

○小町教育長 ほか、ございますか。伊藤委員。

○伊藤委員 私も以前、一生懸命読ませていただきまして、その中で選んだ東京書籍、改めて見ても、あまり押しつけがましくなく、いいのではないかという気がいたします。

○小町教育長 ほか、ございますか。嶋田委員。

○嶋田委員 私も各者見させていただいて、やはり東京書籍のものが、かがやく自分になろうというメッセージもいいですし、題材もいろいろな分野から幅広く取り上げておりますし、また、いじめのない世界へなど見出しが大変分かりやすく、また発問もシンプルで大変いいなと思いました。1つ、スマートフォンとかゲームなど、SNSの問題などをもっと低学年から扱っているような教科書もあったので、そのところだけが少し気になりましたけれども、先生方の使い方でそういったところも勉強していただけるといいのかなと思いましたし、何よりも採択されたばかりで、先生方も勉強してくださっているところだと思いますので、やはり東京書籍がいいと思います。

○小町教育長 ほか、ございますか。田中委員。

○田中委員 私は8者のうちの学図と東書に絞り込んでみました。

学図についてはスポーツを題材にした教材あるいは実物の人材、このような題材が各学年に掲載されておりよく工夫しているなど、そんな印象を持ちました。また、左ページの複数の教材のワークシート、これが配置されておりました。しかしながら、この道徳科についてはご承知のように特別の教科 道徳と。その中で心情を読み取るのではなくて考え、議論する、そういう道徳にということで、その中から道徳的な判断力あるいは心情、実践意欲を高める、そんなことが大事になると思うんですね。そういう点では基本的な発問あるいは中心発問、補助発問があまりにも丁寧ですと先生方の考える余地がなかなか難しいというふうな印象を受けました。また、左ページに複数の教材のワークシート、これが配置されているんですね。これによって裏ページに透けて見えててしまう。この辺りがもったいないなと思いました。また、教材の内容項目はよくまとまっているのですが、先ほど申し上げたように基本発問なり中心発問あるいは補助発問、そういうことも考えながら先生方がなさる場合に、授業の仕方に工夫が相当必要であろうと、そんな印象を持ちました。

一方、東書については、学習の記録が色塗りしてあって、完成させるようになっていました。また学習の振り返り、これは非常に簡便に書き込めるように工夫されておりました。さらに重点目標には2つから3つの教材を配列し、かつ、いじめ問題に対応した教材、これが直接教材から間接教材とステップできるように効果的に工夫されていたなと思います。これまで私も年間、小中学校道徳授業地区公開講座、それぞれ回って一緒に研究させていただくわけですけれども、そういう中でも東書は使いやすいと。そういう意味では当市の児童の道徳性を高めるにはより適切ではないかという印象を持ちました。したがって、私は東書が良いと判断をいたしました。

○小町教育長 私も述べたいと思います。道徳に関しましては東京書籍を推したいと考えています。各委員ご指摘の部分ございます。目次の見やすさ、様相別の分かりやすさということはよくできているかなというふうに考えていますし、何より考え方というところは、

設問のところがだいたい2つ、考え方1、2という形で2つぐらいに整理されている。ということは逆にいようと、子どもたちが考える余地をしっかりと教材ごとに担保することになるのかなと思っています。まさに新しい学習指導要領は考える道徳とよく言われますけれども、考える余地を削いでしまうような設問の例示というのは、逆に立川市の子どもにとってはマイナスになるかなと思いますので、そういう意味で、その部分が精選されているという意味で、東京書籍を推したいと考えています。

また分冊に関しましては何者かございましたけれども、立川市の子どもたちにとっては、ちょっと使いづらい部分があるのかなということを申し添えさせていただきます。

○小町教育長 長い間ご協議ありがとうございました。

では、ここで協議の内容を確認させていただきます。

国語に関しましては光村図書出版、書写に関しましては日本文教出版、社会に関しましては教育出版、地図に関しましては帝国書院、算数に関しましては東京書籍、理科に関しましては教育出版、生活に関しましては学校図書、音楽に関しましては教育芸術社、図画工作に関しましては日本文教出版、家庭科に関しましては東京書籍、保健に関しましては光文書院、英語に関しましては光村図書出版、道徳に関しましては東京書籍ということでございます。よろしいでしょうか。

[「はい」との声あり]

○小町教育長 では、異議がございませんので、確認もさせていただきましたとおりということにさせていただきます。本定例会において、採択に向けて追加議案として提出させていただきたいと思います。異議ございませんか。

[「異議なし」との声あり]

○小町教育長 それでは事務局は資料の準備をお願いいたします。

本議案につきましては、資料の準備ができ次第、議事日程の4その他あとにお諮りしたいと思います。

---

## ◎議 案

### (1) 議案第13号 令和2年度使用立川市立中学校教科用図書の採択について

○小町教育長 続きまして、1 議案(1)議案第13号、令和2年度使用立川市立中学校教科用図書の採択について、を議題といたします。

前田指導課長、説明をお願いいたします。

○前田指導課長 それでは、議案第13号、令和2年度使用立川市立中学校教科用図書の採択について、ご説明いたします。

資料の令和2年度使用立川市立中学校教科用図書 採択一覧をご覧ください。

現在、市内の中学校では平成27年度に採用された教科用図書を利用しているところでございます。例年であれば、4年が経過しており今年度が中学校教科用図書の採択に当たる年となります。しかし、新学習指導要領の全面実施を令和3年度に控えていることから、

今回の採択にかかる教科用図書は令和2年度のみの利用となること、また、今回の採択に係わって新たに教科用図書検定に合格したものが一つもないこと。さらには現在使用中の教科用図書は十分な調査研究の結果採択がなされており、教育活動において十分な成果を上げているということから、令和2年度使用の教科用図書採択に関しましては、平成27年度に採択された教科用図書と同一のものを採択する、ということをご提案するものでございます。

よろしくご審議の上、ご承認くださいますようにお願いいたします。

○小町教育長 説明ありがとうございます。

これより質疑に移ります。説明内容を踏まえ、ご質疑をお願いいたします。

はい、田中委員。

○田中委員 これについては義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律第13条、この規定の説明にもよりますし、あわせて当市の各中学校において、特段、便宜上問題はない、その中で10教科16種目、引き続き採択をよろしくお願ひいたします。

○小町教育長 ほか、ございますか。よろしいですか。

[「はい」との声あり]

○小町教育長 ないようでございます。それではお諮りいたします。議案第13号、令和2年度使用立川市立中学校教科用図書の採択について、は提案のとおり承認することにご異議ございませんか。

[「異議なし」との声あり]

○小町教育長 異議なしと認めます。よって、議案第13号、令和2年度使用立川市立中学校教科用図書の採択について、は承認されました。

---

## ◎議 案

### (2) 議案第14号 令和2年度使用立川市立小中学校特別支援学級教科用図書の採択について

○小町教育長 続きまして、1議案(2)議案第14号、令和2年度使用立川市立小中学校特別支援学級教科用図書の採択について、を議題といたします。

前田指導課長、説明をお願いいたします。

○前田指導課長 議案第14号、令和2年度使用立川市立小中学校特別支援学級教科用図書の採択について、ご説明いたします。

小中学校の特別支援学級で特別な教育課程を編成している場合、本市においては現在は知的の固定制特別支援学級がこれに当たります、学校教育法附則第9条及び同法施行規則第139条の規定により、当該学年用の文部科学省検定済教科用図書を使用することが適当でない場合には、当該学校の設置者の定めるところにより他の適切な教科用図書を使用することができる、となっております。本案は、お配りさせていただきました採択一覧により、立川市立中学校特別支援学級が令和2年度に教科用図書として使用する一般図書の採

択をご提案するものでございます。

採択一覧にある教科用図書につきましては、東京都教育委員会が調査研究をし、適切な図書として判断したものについて、もう1つの資料にございます一般図書選定資料一覧のほうにもございますように、各学校が十分に調査研究を行い選定いたしました。一般図書選定資料の中にお示しいたしましたのは、各学校は子どもたちの障害の様子まで参考にしながら、どの一般図書がふさわしいかというものを検討を重ね、選定したものでございます。よろしくご審議いただきまして、その採択について、ご承認くださいますようお願い申し上げます。以上です。

○小町教育長 説明ありがとうございます。

これより質疑に移ります。説明内容を踏まえ、ご質疑をお願いいたします。

はい、田中委員。

○田中委員 今のご説明のあったとおりで引き続きの採択、よろしくお願ひいたします。

○小町教育長 ほか、ございますか。よろしいですか。

[「はい」との声あり]

○小町教育長 ないようでございます。それではお諮りいたします。議案第14号、令和2年度使用立川市立小中学校特別支援学級教科用図書の採択について、は提案のとおり承認することにご異議ございませんか。

[「異議なし」との声あり]

○小町教育長 では、異議なしと認めます。よって、議案第14号、令和2年度使用立川市立小中学校特別支援学級教科用図書の採択について、は承認されました。

---

## ◎協議

### (2) 教育委員会の点検・評価について

○小町教育長 続きまして、2協議(2)教育委員会の点検・評価について、を議題といたします。庄司教育総務課長、説明をお願いいたします。

○庄司教育総務課長 それでは、教育委員会の点検・評価、成果物の名称では、教育に関する事務の管理及び執行状況の点検及び評価に関する報告書につきまして、最終のご協議をお願いしたいと思います。

前回より修正を加えたところでございますが、全部で3ページございます。

1つ目が5ページ、教育委員会活動の施策2「教育委員会の会議の公開等に関すること」の成果の項目中の平成28年度の傍聴者数、こちらに誤りがございましたので、これに関連しまして2カ所の人数を修正させていただきました。

2つ目、22ページでございます。施策3-2「体力の向上と健康づくりの促進（質の高い学校給食の提供）」の外部評価委員の評価に誤字がございました。これを修正させていただきました。これにつきましては前回の会議でご指摘をいただいたものでございます。

最後の3つ目、61ページでございます。施策17「学校と学校図書館の取組」の施策の実

績の3図書館別団体貸出状況の表中の冊数の数字、3カ所修正させていただきました。

いずれも変更点につきましては黒く塗りまして下線で示してございます。以上が修正点でございます。

今までの審議の経過でございますけれども、評価に関する基本方針をご協議いただきましたあと、以降6回にわたりまして本定例会でご協議をいただきました。次回、9月5日の第17回教育委員会定例会におきまして、最終的に議案として提出させていただきます。

最後になりましたが、次回の定例会において議案の提出にあたりまして、もう一度チェックをしまして、言葉の使い方が若干、統一がされていないところが見受けられましたので、こちらも再度チェックしまして、議案として提出してまいりたいと思います。

簡単ではございますが、説明は以上でございます。

○小町教育長 説明ありがとうございました。

これより質疑に移ります。説明内容を踏まえ、ご質疑をお願いいたします。

はい、田中委員。

○田中委員 私のほうから、この外部評価委員の先生方のそれぞれコメントも拝見いたしました。改めて三人の先生方にお礼を申し上げたいと思います。その上で、本当に外部評価委員の先生方が適切なコメントを寄せるにあたってご苦労されました大野教育部長、庄司教育総務課長はじめ事務局の関係の皆様に心から感謝申し上げます。

その上でこのコメントを拝見しまして、教育委員会活動の点検・評価については、教育委員会の会議から学校訪問・視察までの16施策、これについては非常に高い評価をいただいている事案が5点、改善要望が2点いただきました。

また、教育委員会施策の点検・評価、これについては第2次学校教育振興基本計画から第3次子ども読書活動推進計画まで19施策、これについても非常に高い評価をいただいておりまして、これについては19点ほど高い評価をいただいております。次に、電子書籍の研究よりも地域資料等の電子化と発信の優先の改善、あるいは重要事項、これが12点記載されていますね。

さらに新たな提言をいただいております。事案としては、活発に運動ができる公園の整備、新しい立川らしい風土を生かした健康づくりの推奨、また、犯罪をその場で防ぐ自助・共助の体制の強化と、5点が記載されていました。さらに昨年度も指摘された事案としては、文部科学省が定めた「学校図書館図書標準」に満たない学校が存在する、これ2点ほど昨年度と同様の指摘を受けています。したがいまして、今後事務局におかれましては、これらのコメントを精査して、適切な対応をよろしくお願い申し上げます。

○小町教育長 ほか、ございますか。松野委員。

○松野委員 いま挙げられた3点の3ページにわたる訂正、これによって文言等、あるいは変更があるのでしょうか。

○小町教育長 庄司教育総務課長。

○庄司教育総務課長 今回の変更によって評価が変わったりとか、ほかに影響するというこ

とはございません。

○松野委員 分かりました。

○小町教育長 きょうは最終ということで、次回は議会に報告するということも含めまして、議案としたいと思います。ほか、ございませんか。

[「ありません」との声あり]

○小町教育長 ないようでございます。それではお諮りいたします。協議(2)教育委員会の点検・評価について、はとりあえずきょうの段階ということで、提案どおり承認することに異議ございませんか。

[「ありません」との声あり]

○小町教育長 異議なしと認めます。よって、協議(2)教育委員会の点検・評価について、はきょうのものについては承認されたということで、最終的には次回、議案として、最終チェックしていただいた上で承認ということにしたいと思っています。よろしくお願ひいたします。

## ◎報 告

### (1) 第17回全国小学校英語教育実践研究大会の開催について

○小町教育長 続きまして、3報告(1)第17回全国小学校英語教育実践研究大会の開催について、を議題といたします。

庄司教育総務課長、説明をお願いいたします。

○庄司教育総務課長 それでは私の方から、第17回全国小学校英語教育実践研究大会の立川の開催につきまして報告いたします。

この全国小学校英語教育実践研究大会につきましては、実行委員会の主催により、全国を回って開催されております。過日、その実行委員会の構成メンバーの第三小学校の校長及び小学校の校長会長より、第17回の大会を立川市内で開催する旨の報告がございました。立川市教育委員会としては、事業を後援する立場となります。

開催の趣旨でございますが、令和2年度より新学習指導要領の全面実施がされることによりまして、小学校において英語が正式に教科化されます。小学校の先生方にとっては英語に対する指導力の強化が必須となってございます。この大会の開催により、学識者の講演や研究の実践例を受けまして、英語教育の発展につなげていくものでございます。

主催は、全国小学校英語教育実践研究大会の実行委員会でございます。事業後援でございますが、これあくまでも予定でございます。今までの開催の様子から想定されるものでございますが、文科省であるとか東京都教育委員会、立川市教育委員会等が後援をいたします。その予定でございます。

開催でございますが、令和2年度、令和3年1月30日土曜日になります。全体会は立川ステージガーデンといいます。これはちょうどいま建設中の、来年の5月にできる大きなホール、立飛さんの関連のホールでございます。2,500人収容となる大きなホールでご

ざいます。そちらを全体会として行って、分科会をたましん RISURU ホール、市民会館で行いたいというものでございます。その前日につきましては、立川市の場合は若葉台小学校、その他区部、市部において 10 校ほど公開授業をいまのところ考えている予定でございます。前日の金曜日に公開授業をやって、翌日に全体会、分科会をやるようなスケジュールを考えているそうでございます。

来場者でございますが、2,000 人ということでかなり大勢の方が全国からいらっしゃる、主に先生方、研究者の方々でございますけれどもいらっしゃるということ、を想定してございます。

予算のほうは、この実行委員会の予算のほうで執行する予定でございます。

近年の開催でございますが、30 年度、昨年は三重のほうで行いました。31 年度、今年度につきましては、令和 2 年 2 月 7 日、8 日と山梨大会ということで甲府市で行う予定でございます。

そういうことでございまして、令和 2 年度につきましては立川市でこの大会を開催するという旨の報告でございます。簡単でございますが、説明は以上でございます。

○小町教育長 報告ありがとうございました。

これより質疑に移ります。報告内容を踏まえ、ご質疑をお願いいたします。

はい、田中委員。

○田中委員 今お話がございましたように、新学習指導要領を踏まえて、小学校においては今後、国際化あるいは情報化に伴い、ますます求められる英語教育だと思います。したがいまして、先生方には英語に対する指導力の強化は避けて通れない大きな課題かな思います。その意味では、本実践大会はまたとないチャンスだと思いますので、したがいまして、立川市教育委員会としては運営面等含めた後援をよろしくお願ひ申し上げます。

○小町教育長 松野委員。

○松野委員 それともう 1 つ、せっかくの大会ですから、大変だではなくて、何か子どもたちがはりきれる、そして、ああ、やってよかったな、僕たちの力を見てほしいという、そういう何か発刺と意欲的な学校に、あるいは公開になるように、公開授業もありますので、なるようにしていただければありがたい、その配慮を是非お願ひしたいと思います。

○小町教育長 ほか、ございませんか。

[「ありません」との声あり]

○小町教育長 ではないようでございます。それではこれで報告(1)第 17 回全国小学校英語教育実践研究大会の開催について、の報告及び質疑を終了いたします。

○小町教育長 次にその他に入ります。

その他、ございますか。

[「ありません」との声あり]

○小町教育長 その他、ないようでございます。

○小町教育長 続きまして、先ほど申し上げたとおり、議案第15号といたしまして、令和2年度使用立川市立小学校教科用図書の採択について、を議題といたします。  
では資料の配付をお願いいたします。  
暫時休憩させていただきます。

午後3時25分休憩

---

午後3時27分再会

○小町教育長 休憩前に戻りまして、会議を再会いたします。

---

#### ◎議 案

##### (3) 議案第15号 令和2年度使用立川市立小学校教科用図書の採択について

○小町教育長 続きまして、議案第15号、令和2年度使用立川市立小学校教科用図書の採択について、を議題といたします。

前田指導課長、説明をお願いいたします。

○前田指導課長 先ほどは丁寧にご協議いただきまして、ありがとうございました。ご協議いただいた内容を踏まえまして、別添のとおり、一覧にまとめさせていただきました。

また、ご協議いただく前に、ご確認、ご承認いただいた内容につきまして、書写が新しく採択替えとなりましたので、※1「書写」の教科用図書については、全学年について「新たに採択した発行者の新版教科用図書」を使用するという旨、記載させていただきました。

また、ご確認いただいた第4学年の「社会」と申し上げましたけれども、そういった内容につきまして、※2のところにお示しさせていただいたところでございます。

ご確認いただきまして、ご承認いただきますようお願い申し上げます。以上です。

○小町教育長 説明ありがとうございました。

これより質疑に移ります。説明内容を踏まえ、ご質疑をお願いいたします。

はい、田中委員。

○田中委員 前田指導課長、どうもありがとうございました。今、課長のほうから説明があつた方向で採択も含めて、よろしくお願ひいたします。

○小町教育長 ほか、ございますか。よろしいでしょうか。

[「はい」との声あり]

○小町教育長 ないようでございます。それではお諮りいたします。議案第15号、令和2年度使用立川市立小学校教科用図書の採択について、は提案のとおり承認することにご異議ございませんか。

[「異議なし」との声あり]

○小町教育長 異議なしと認めます。よって、議案第15号、令和2年度使用立川市立小学校教科用図書の採択について、は承認されました。

以上で本日の議題は全て終了いたしました。

---

◎閉会の辞

○小町教育長 それでは次回の日程を確認いたします。次回、第17回立川市教育委員会定例会は令和元年9月5日木曜日、午後1時30分から、208・209会議室で開催いたします。これをもちまして、令和元年第16回立川市教育委員会定例会を終了いたします。

午後3時30分

署名委員

.....

教育長